

◆ 港都税事務所長賞 ◆

「世界につながる税」

港区立小中一貫教育校 お台場学園港陽中学校 9年 山崎 紗英

港区では、昨年度までは一年間で一人1回までだった英検や漢検を受ける際の公費負担が、今年度からは3回まで利用できるようになった。中学三年生になり高い級を受験することが増え、それにもなって受験料も高くなっていたため、とてもありがたい。公費が3回使えるようになったという話の中で、「公費は港区が出してくれているんだよ。」と先生が言っていた。私はそれを聞いて、港区が出しているお金というのは、結局は何のお金で、誰が払っているのだろう、と思った。家に帰って母に聞いてみると、「英検とかの公費には、港区民や港区の会社が区に支払っている、住民税という税金が使われているんだよ。」と教えてくれた。私は、税金がどんなものに使われているかある程度知っているつもりだったのだが、まだまだ知らないこともあるのだなと思い、改めて税金について調べてみることにした。

すると、税金の使い道のひとつに経済協力費というものがあることを知った。日本では歳出総額の0.4パーセントにあたる、5,114億円が経済協力費として使われている。発展途上国の経済的、社会的開発や、福祉の向上に貢献するため、贈与や技術協力、国際機関への資金の提供などを行っているのだ。具体的には、ダムや道路、病院の建設、薬や注射器の提供などが挙げられる。今まで私は、税金は日本の中でしか使われていないと思っていたため、世界の貧しい国のためにも使われていると知って驚いた。以前、国語の授業で発展途上国の貧困の深刻さと、貧困を救うためには募金などによる支援が大切であると学んだ。しかし、実際には学校で募金活動が行われているときに募金をするくらいしかできておらず、少し心苦しく感じていた。でも、税金が発展途上国への支援に使われていると知り、税金を納めることでほんの少しは発展途上国の役に立てていると思うと、うれしい気持ちになった。また、調べていく中で、発展途上国への協力を行うのは日本のためでもあると分かった。食べ物や資源など、私たちの身の回りの多くのものは発展途上国から輸入している。つまり、私たちの豊かな生活は発展途上国の存在があってこそそのものなのだ。「経済協力」というと、支援した国には利益がないと思いがちだが、支援した国も普段は発展途上国の国々に支えられていて、発展途上国の存在があるから豊かな生活が送れているということを忘れないでおきたいと思った。

今回改めて税金について調べてみて、税金は世界の貧しい国の支援に役立てられていること、そしてそれは私たちの豊かな生活にもつながっていることが分かった。税金を納めることは日本、それから世界の安心・安全で豊かな暮らしにつながっているのだ。私はこれからもきちんと税金を納めようと思う。日本、それから世界の人々の幸せを願って。